

追 悼 評 議 員 雀 部 高 雄 君

本会評議員 雀部高雄君は、昭和42年6月19日午前零時30分、胆のうガンのため東京・虎の門共済病院にて逝去せられました。ここに同君の冥福を祈り、つつしんで哀悼の意を表します。



経 歴

昭和11年3月東京帝国大学工学部冶金学科を卒業し、直ちに日本製鉄株式会社八幡製鉄所に入社勤務し、戦後の同社分割後は八幡製鉄株式会社に属した。昭和26年4月同社を依願退職し、昭和27年4月千葉工業大学教授となり、昭和36年5月東京大学生産技術研究所教授に転じて現在に至った。その間独創的な学識をもつて多くの業績をあげた。特に八幡在職中には製鋼反応に関する研究が多く、千葉工大、東大生研在職中には鉄鉱石の還元機構、製鋼過程の基礎研究を行ない、昭和21年本会服部賞を受け、昭和36年東大工学部より学位を授与された。鉄鋼技術の共同研究体制の確立に努力し、特に東大生研の試験溶鉱炉の運営を推進してきた。経済学、および技術史に造詣が深く、鉄鋼生産の「技術と経済」の新研究分野を開拓し、科学技術教育の革新について啓蒙活動をおこない、タタラ法の保存と復元に努力してきた。本会にあつては、多年にわたり理事として会の発展に尽力し、また「共同研究会」新技術開発部会々長の任にあたられ現在に至った。

弔 辞

本会評議員雀部高雄博士の訃報に接し、悲しみに堪えず謹んで弔辞を呈します。

博士は鉄鋼金属に関する学術技術の研究者、教育者として令名高い方であります。

本会に関しましては理事、評議員の要職を初め、共同研究会新技術開発部会長ならびに資料委員長などに就任され、本会運営のために精力的な活動をされました。本会が今日の隆盛をみるに至りましたことは、博士のご尽力に負うところ極めて大なるものがあります。

内外の厳しい環境の下にあるわが国鉄鋼界が、博士の高い識見によるすぐれたご指導を切望いたしておりましたときに、突然永眠され、再び博士の温容に接することができなくなりましたことは洵に哀惜に堪えないところであります。

ここに日本鉄鋼協会を代表し、博士の遺された幾多の業績に対し深甚の敬意を表し、謹んで冥福を祈り哀悼の誠を捧げます。

昭和42年6月22日

社団法人日本鉄鋼協会会長 佐 野 幸 吉